

1 単元の目標

○1000までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進法取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・3位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。	・10や100のまとまりに着目し、十進法取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。	・10や100のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 単元計画

	時	学習内容 (全12時間)	評価
第1次	1	○3位数の読み方や表し方を理解する。 ・235個のクリップの数を工夫して数える。 ・235の数構成と命数法、記数法を知る。 ・用語「百の位」を知る。	【知・技】3位数の読み方や表し方を理解し、3位数を書いたり読んだりすることができる。 [発言・ノート] 【態度】10や100のまとまりに着目することのよさに気づき、クリップの数を工夫して数えようとしている。 [発言・観察]
	2 3	○数カードを並べて数を表すことを通して、3位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。 ・位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3位数を数カードで表したりする。	【知・技】3位数の各位の数字はそれぞれ100、10、1の単位の個数を示し、10以上の数が入らないことを理解し、3位数の構成を等式で表すことができる。 [発言・ノート]
	4	○230などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。 ・10円玉が14枚でどれくらいになるかを10を単位にして考える。 ・230円は10円玉で何枚になるかを、10を単位にして考える。	【思・判・表】数のまとまりに着目し、230などの数を10を単位としてとらえている。 [発言・ノート]
	5	○数直線の読み取りを通して、3位数の大小、順序を理解する。 ・数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を書いたりする。	【知・技】数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。 [観察・ノート]
	6	○1000の構成、数の読み方、書き方及び1000付近の数を理解する。 ・図の●の数を工夫して数え、百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。	【知・技】百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くこと、及び1000付近の数を理解している。 [発言・ノート]
	7	○1000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。 ・780のいろいろな見方を表現する。 ・表現した見方を、式を使って表す。	【知・技】数の構成に着目し、1000までの数の多様な見方について考え、説明している。 [発言・ノート]
	8 本時	○何十+何十の計算の仕方を数の構成に着目して考え、説明することができる。 ・50+70の計算の仕方を考える。 ・10を単位にして数を単位としてとらえると1位数の加減計算に帰着できることをまとめる。	【思・判・表】十を単位とする簡単な加減の仕方を、十を単位とした絵や式と言葉を結び付けて考え、表現している。 [観察・ノート・発言]
	9	○何百+何百の計算の仕方を数の構成に着目して考え、説明することができる。 ・300+200の計算の仕方を考える。	【知・技】何百+何百の計算の仕方を理解し、その計算ができる。 [ノート]
	10	○不等号を知り、数の大小関係を式に表すことができる。 ・3つの学校の児童数の大小を比較する。 ・不等号を用いた式の表し方を知り、数の大小を不等号を用いて表す。	【知・技】不等号の意味を理解し、数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。 [発言・ノート]
	11	○数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。 ・数と式の大小、相等関係の表し方を知る。	【知・技】数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。 [発言・ノート]
	12	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返る。 ・「たしかめよう」に取り組む。 ・単元の振り返りを書く。	【知・技】基本的な問題を解決することができる。 【態度】単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。 [ノート]

<p>1 単元名 3けたの数 教材名 何十、何百の計算</p> <p>2 児童の学力の状況 1年時1月に行った総合学力調査の結果より観点別正答率は3観点とも全国平均正答率を大きく超えているが、「数学的な考え方」は〇%で〇%に達していない。特に、文章が表す場面を式に表したり、式から引き算の問題をつくったりすることに課題が見られ、2極化の傾向が出始めている。意欲的に学習に取り組む児童が多い。また、友だちの発表をしっかりと聞き、共感的に意見を受け入れようとする児童も多い。2けたの数の足し算や引き算の筆算では、筆算の仕方を友だちと伝え合う活動を積み重ねてきた。学び合いを通して、ほとんどの児童が早く正確にできるようになってきている。</p> <p>3 教材観 本単元は、数範囲を1000まで拡張し、数の読み方、書き方及び数の系列、順序、大小について理解を深めること、数の相対的な大きさや数の構成の理解を深めること、さらに、数や式の大小、相等関係不等号、等号を用いて表せるようになることをねらいとしている。また、数の相対的な大きさや数の構成の理解を深めることを意図して、何十、何百の計算も取り上げている。そこで、単元を通して授業では、算数用語として「10のまとまり」を意識させながら図・式・言葉により自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを説明したりする活動を繰り返し仕組むことで数の相対的な大きさや数の構成を理解する力を伸ばしていきたい。</p> <p>本時では、$50 + 70$の計算の仕方について考える。見通しではこれまで算数の学習でおさえてきた「10のまとまり」といったキーワードを視覚的にも確認できるよう提示する。自立解決の際は、計算の過程を式や言葉で説明をしたり「10のまとまり」の半具体物や図を用いて説明をしたりして、それぞれの児童が理解しやすい方法で解決活動を進める。全体学習での考察では、出された考えの共通点を見つけたり、より早く、より確実に、より正確にできる方法を選んだりする活動を行う。その活動を通して学習を深め、まとめにつなげていきたい。</p>	<p>4 本時の目標 十を単位とする簡単な加減の仕方を考えることができる。</p> <p>5 評価規準 【思・判・表】十を単位とする簡単な加減の仕方を、十を単位とした絵や式と言葉を結び付けて考え、表現している。(観察、ノート、発表)</p> <p>6 本時の展開 (8/12)</p>	
	<p style="text-align: center;">学習展開 ・本時における願う児童の姿</p> <p>導入 11:15</p> <p>課題設定 問いの共有</p> <p>見通し 11:20</p> <p>・シラバス ・キーワード ・言語わざ</p> <p>自力解決 11:30</p> <p>ペア学習 11:40</p> <p>全体学習 11:45</p> <p>考察</p> <p>まとめ 11:55</p> <p>振り返り 11:57</p> <p>1 問題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> たかしくんはおりがみを50まい、あきさんは70まいもっています。ふたりあわせてなんまいもっているでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> あわせてともんだいに書いているからたしざんのしきになるよ。 しきは$50 + 70$だ。 ・こたえは100をこえそうだ。 一のくらいにりょうほう0がついているな。 </p> <p>2 本時の課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> $50 + 70$のけいさんのしかたをかんがえ、せつめいしよう。 </div> <p>(一人学び(10分)・ペア学び(5分)・全体(10分)・まとめ(2分)・振り返り(3分)) ○見通しをたてましょう。 ・10のまとまりの図で考えよう。・式や言葉で説明しよう。・さくらんぼ計算が使えるそう。</p> </p> <p>10のまとまり 100のまとまり 「まず～次に～」</p> <p>3 自分の考えを絵やことば、式に表してノートとWBに書く <予想される児童の反応> (ア) 数える ・$\textcircled{10}\textcircled{10} + \textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10} = 50 + 70 = 120$ $\textcircled{10}\textcircled{10} \quad \textcircled{10}\textcircled{10}$</p> <p>(イ) 100のまとまりをつくる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> $\textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10} + \textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10}$ </div> $\textcircled{10}\textcircled{10}$ 100と20で120</p> <p>(ウ) 10のまとまりをつくる $\textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10} + \textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10}\textcircled{10}$ 10が5こ 10が7こ $\textcircled{10}\textcircled{10} \quad \textcircled{10}\textcircled{10}$ $5 + 7 = 12 \Rightarrow 10$が12こで120</p> <p>4 ペア学習で考えを伝え合う。 ・ノートやWBを使って自分の考えを伝え合う。</p> <p>5 出てきた考えを別の児童が説明する。 (ア) 50と70をたして120です。 (イ) 50と50で100、のこりの20を合わせて120です。 (ウ) 10のまとまりが5こ10のまとまりが7こなので$5 + 7 = 12$ 12は10のまとまりが12こということなので答えは120だ。</p> <p>6 考察から、本時の課題にせまる。 ・10のまとまりでかんがえたよ。 ・1年生のときのけいさん(5+7)をもとにして答えがでるよ。 ・絵をかいてみるとよくわかったよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> $50 + 70$のけいさんは10のまとまりでかんがえるとかんたんにこたえをだすことができる。 </div> <p>7 この時間に学習したことをまとめる。 8 適用問題を解く。 $60 + 40$</p>	<p>・願う児童の姿に迫る手立て ◇ 評価</p> <p>・ペアで前時の学習の振り返りをする。</p> <p>・分かっているところに赤線、聞かれているところに青線を引くよう伝える。</p> <p>キーワード あわせる たし算 2けたの数 10のまとまり</p> <p>・児童が視覚的に数を捉えられるように半具体物を提示する。</p> <p>・⑩のカードを用意し、児童が操作を通して考えることができるようにする。</p> <p>【思・判・表】十を単位とする簡単な加減の仕方を、十を単位とした絵や式と言葉を結び付けて考え、表現している。(観察、ノート、発表)</p> <p>・「$5 + 7$の計算でできます。」という発言に対して、「5は何が5つあるのかな？」と問い返す。</p> <p>・児童が本時の課題にせまれるよう、より早く、より簡単に、より正確にできるのはどれかと問う。</p> <p>振り返りの視点 今日の学習で学んだこと 友達から学んだこと もっと知りたいと思ったこと</p>